

**2018J2** ■順位表■第24節【暫定】

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

(\*は消化試合が1少ない)

1	松本	44p	+13	35	22	HO
2	町田	43p	+11	39	28	H●
3	横浜FC	42p	+7	33	26	H● A●
4	大分	41p	+7	40	33	A●
5	山口	41p	+4	42	38	H△
* 6	福岡	40p	+10	32	22	A●
7	大宮	39p	+7	36	27	AO
8	東京V	36p	+9	31	23	A△
9	岡山	35p	+3	24	21	A△
10	甲府	34p	+11	41	30	H● AO
11	山形	34p	+2	30	28	A●--
12	岐阜	32p	+2	31	29	---
13	水戸	32p	+1	29	28	HO
14	金沢	31p	0	33	33	H●
15	徳島	31p	0	23	23	H△
16	新潟	29p	-5	25	30	HO
17	千葉	28p	-7	40	47	AO
18	栃木	27p	-11	20	31	H△
19	愛媛	24p	-11	18	29	AO H●
20	熊本	22p	-16	29	45	AO
21	讃岐	21p	-21	20	41	AO
* 22	京都	16p	-17	18	35	A●

**次回HomeGame**

第26節 vs. 大分トリニータ

7/29 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

**Living in Woods**

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

**湯麺 戸塚**

店主：戸塚 哲也

瑞穂市穂積1596-4

11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)

お休み情報 twitter: @Tanmen\_Tozuka

☆☆☆各務原店もよろしく!!☆☆☆

today's guest : **カマタマーレ讃岐**

2017 J2 8勝14分20敗 勝ち点38:19位

直近の対決と結果

2018/06/10

J2 - 18節@ピカスタ

**讃岐 0-1 岐阜**

古橋亨梧 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	カマタマーレ讃岐
2018/07/21 J2 - 24節@ニッパツ 横浜FC 3-0 岐阜	2018/07/21 J2 - 24節@ピカスタ 讃岐 2-1 千葉
2018/07/15 J2 - 23節@中銀スタ 甲府 1-3 岐阜	2018/07/15 J2 - 23節@レベスタ 福岡 3-1 讃岐
2018/07/08 J2 - 22節@長良川 岐阜 1-2 愛媛	2018/07/07 J2 - 22節@K s スタ 水戸 5-0 讃岐

●2018年J2リーグの折り返しとなった7/8(日)第22節・ホーム愛媛戦。FC岐阜は前半すぐに先制点を挙げるが、後半に逆転されてしまい、1-2で悔しい敗戦を喫した。しかし、逆に第23節・アウェイ甲府戦では、前半リードされたものの、#7田中パウロ淳一の2ゴールなどで逆転し、3-1と4試合振りの勝利を掴んだ。ここで調子を取り戻したいところだったが、6位・横浜FCとの第24節・アウェイ戦では試合開始早々に失点し、その後も惜しい展開は見せるものの、ゴールを奪えず逆に失点を重ねて0-3での完敗。上位チームとの差を痛感させられる結果に終わった。

この3試合の結果が1勝2敗、直近5試合では1勝1分3敗と負け越してしまったFC岐阜。順位は12位と変わっていないものの、6位・福岡との勝ち点差は8に開いてしまった。しかし、9位・岡山との勝ち点差は3であり、まだまだ順位を上げる余裕は残されている。一方で、16位・新潟との勝ち点差も3。1つの勝敗で順位が大きく入れ替わる状況だ。今節は中3日・真夏の3連戦の2試合目となるが、今日と29日の2試合をホーム・長良川競技場で迎えることができる。チームは少し調子を落としてしまった感があるが、このアドバンテージを活かして、再び上昇気流に乗ってもらいたい。

さて、その真夏の3連戦・2戦目の対戦相手は、現在21位のカマタマーレ讃岐だ。今シーズンも一時期は5連敗して最下位に落ち、現在もJ3降格圏という不本意な成績で苦しんでいるが、ここ5試合では3勝2敗とチーム状態は上向きを見せている。前節も千葉を2-1で破り、20位・熊本との勝ち点差も1に縮まったことで、J2残留圏も射程内に入っている。讃岐のモチベーションは非常に高い状態にあるだろう。下位とはいっても、全く油断ができない対戦相手だ。一方で岐阜にとっては、下位の相手をしっかり叩くことが、順位を上げていくためには非常に重要だ。讃岐との(Jリーグでの)通算対戦成績は、FC岐阜の5勝1分3敗・13得点11失点と勝ち越しており、ホーム戦でも2勝1分1敗・5得点3失点と相性が良い。前回の対戦6/10(日)第18節・アウェイ戦では、#11古橋亨梧の1得点を守りきり、岐阜が1-0で勝利してクラブ記録タイの4連勝を飾った試合となった。今節も、再び岐阜の勝利でスタジアムを沸かせて欲しい。讃岐の最注意選手には、現在6ゴールの#20原一樹を挙げておかななくてはならないだろう。前回の岐阜との対戦ではベンチスタートだったが、現在はスタメン起用され、ここ5試合で4ゴールと絶好調。彼の活躍が、チームの好調に直結している。彼の突破を許さないことが、岐阜の勝利には不可欠だ。同様に、前回対戦でベンチだった#19重松健太郎にも注意が必要だ。また、2トップの1角である#13木島は06年~07年に、#10高木和正は06年~09年に、それぞれFC岐阜に所属していたベテラン選手だ。年齢を重ねてもJ2クラブで活躍している姿は嬉しいものだし、また古巣対戦に燃えているだろうが、今節ばかりは活躍させる訳にはいかない。そして、讃岐の#3中島大貴と岐阜の#30中島賢星は兄弟Jリーガー(讃岐の#3中島大貴が兄)。前回対戦では8分間だったものの、兄弟対決を実現した。讃岐の#3中島大貴は現在CBでスタメンの地位を築いているが、今節は#30中島賢星が兄を超える活躍を見せて、岐阜でのスタメンの座を確保してもらいたい。

ナイターとはいえ、中3日で真夏の連戦となる今節。リーグ戦の折り返しを過ぎて、選手たちの蓄積してきた疲労も心配されるが、そんな時だからこそ、ホーム戦のアドバンテージをしっかりと活かしたい。"12番目の選手"として、僕らFC岐阜サポーターが、その拍手と声援で、選手が勝利のために最後まで走り続けるために、その背中を後押ししよう。最後まで岐阜の勝利を信じ、選手たちを励まし、時には叱咤激励する。そういった僕らの拍手と声援で、最後までスタジアムに響かせて、その最後には、勝利の歓喜を選手たちと分かち合おう。(ささたく)



「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜日

**投稿募集!!**

gidaidohri@gmail.com

## 【第22節】岐阜 1-2 愛媛

●大雨が続いて、県内各所で甚大な被害が多発。そんな中で開催決定されたこの日の試合。個人的な思いとしては、どうしてもやらなきゃいけなかったのかなという思いが八割くらい(もちろん試合の結果は置いておいてですが)。実際開催決定された正午には、まだ大雨特別警報が解除されてなかったし、岐阜市内でもまだ避難勧告が解除になってない地域もあったし、そんな状態で開催強行してよいものかと。まあ相手のあることですし、いろんな事情もあるだろうし、Jリーグ含めた三者での熟慮の結果であったことは十分に理解できるのですが。

さて試合の方はというと、自滅かな。存外早く点が取れたというのもあってか、変に受けに回ってしまった感じがした。それで攻めも守りもチグハグになっていき、前半はそれで持ち堪えていたんだけどね……。疲労の蓄積もあってか、全体的に走れてない部分もあったし、こういうゲームをせめて勝ち点1でも取っていけるようにならないと、上を狙っていきるなんてとてもじゃないね。相手も2回目だしもちろん研究もしてくるし、また少し壁にぶち当たった感じがな。ここを乗り越えられれば、また違った景色が見えてくるだろうし、そうでなければ毎年のように(以下略)となってしまうし。またリセットしてやり直しかな。村井チェアマンが久しぶりに長良川にいらしていました。屋台村の光景、スタンドの雰囲気など、チェアマンにはどう映り、どう感じられたのでしょうか？ゆっくりお話する機会があれば是非お聞きしてみたいところです。

(岐阜の誇り)

●西日本豪雨の爪痕も生々しい…というか、前夜まで降り続いた豪雨の影響で、岐阜県内にも被害の出ている中、開催も危ぶまれたリーグ戦折り返しとなる初戦。ギリギリまで開催の可否については議論・葛藤があったとは思いますが、開催が決まった以上は、たとえ被害が甚大な地域のチームが相手だろうと、全力を出して戦うのが礼儀だと僕は思う。まさか『被災地域の希望になろう。』という、愛媛サポのダンマクに影響された訳でもないだろうけれど……(溜息)。

試合開始早々の10分、前節は累積警告で出場停止だった#2阿部正紀がCKをヘッドで決めて、あっさり先制点…と、ここまではよかった。しかし、これで気が緩んだのか、蒸し暑い気候で省エネに気持ちが傾いたのか、更に勢いを増して試合のペースに握って攻めたてるのが、追加点を奪って相手の気持ちを削ぐことが、どうにもできない。岐阜がボールを保持して攻めてはいるのだけれど、最後の精度や迫力に欠ける。そして時折、愛媛にボールを奪われてカウンターも受けてしまう。1点リードしながら、ちょっと嫌な雰囲気で終えた前半。そして修正が期待された後半だったが、やはり修正ができず、しかもホームであるはずの岐阜の方が、早く足が止まり出す。やはり、ほぼ固定されたスタメンでリーグを戦っていると、この夏場に疲労が蓄積してしまうのか…。パスを主体とする攻撃で、その精度が落ちれば、攻撃力は一気に落ちるし、カウンターも更に受けやすくなる。ならばドリブルで仕掛けて相手の守備を崩すことを狙ってもよさそうだけど、今節の岐阜はパスで崩すことに拘ってしまったような。そんな中、久しぶりのスタメン出場だった#30中島賢星が自陣でのビルドアップ時に不用意なパスミスをしてボールを奪われ、ミドルシュートで同点に追いつかれてしまう。確かにあのミドルは素晴らしかったけれど、#30賢星は猛省して貰わなくてはならないし、あの場面で攻守の切り替えが遅れてフリーに撃たせてしまったことも、また指摘しなくてはならないだろう。そして、2失点目もカウンターからの一撃……(溜息)。その後、何度か惜しいシーンも出せたけれど、愛媛が陣地を入れ替えたのは、後半に岐阜のゴール裏の前で守備をしなくて済むためだったのかもしれない……。そのまま、愛媛が守りきって試合終了。愛媛はこれで最下位脱出、そして今季

そして今季初の複数得点だったらしい。逆に、岐阜のサポーターからは、選手たちに厳しい声が飛んだ。

最下位のチームに、いや、この時期の最下位のチームだからこそ、決して油断してはならないし、簡単な対戦相手ではないのだから、僕らは2年前まで、自らの身をもって証明してきたはずだし、それはスタメンの半数近くの選手たちも実体験してきたはずだ。けれど、そうやって挑んでくるチームの気迫すらも、ねじ伏せて勝ちきる強い気迫が無ければ、ここから上を望むことはできない。やはり、上位を目指すためには、ここから更に苦しい試合が続き、それを乗り越えなければならぬのだから、痛感させられた試合結果だった。

(ささたく)

●以前から愛読している少年マンガの月刊誌がある。とはいえ、しばらく読んでなかったんで数か月前の分から読み返していたんだけど、そこに連載されている女子高生のサッカー部を題材にした作品を読み進めていくうちに、思わず電撃が走るというか、ハタと手を打ちたくなるような場面があった。それは、主人公のライバル校。彼女等はW杯のフランスを彷彿させるような守備網を敷くチーム。そして、侵入してきた相手にプレスを掛け、カウンターを虎視眈々と狙っていた。で、そのキャプテンが言う。「ボールは持たせてあげる。」と。彼女らがどうしてそういう戦術を取るのかといえば、それはミスをなくすため。小学生の頃の指導者に「ミスを少なくしろ。そうすれば勝てる。」と言われ、考え抜いた結論がボールを持たないこと。ボールを持たなければミスは起きない。まあ、うろ覚え(苦笑)なんで、多少は脚色したかもしれない。その場面を読みつつ「ああ、そういうことか。」と、目からウロコ。つまり、対戦相手の2倍も3倍もパスを繋ぐようなチームは、ミスに犯す確率、回数も数倍になりうる。そういうことか、と。「何を今さら？」とお思いの方も多いでしょう。ごめんなさい。見ているつもりで、全然見えてなかったと反省しきりの今日この頃です。

ボクが何を書きたいか、おわかりでしょうか？愛媛戦は先制したにもかかわらず、目を疑いたくなるような相手へのプレゼントパスから追いつかれ、せつかくの良い流れが立ち消えての逆転負け。折り返し点を迎え、さらに上を目指すためにどうしても欲しかった勝ち点3を自ら失うはめになってしまったのは残念でした。

ただ、ウチのようにボールを繋ぐチーム、中でもボールを触ることが多い最終ライン。そして、そこ前線を繋ぐリンクマン。この辺りでミスが出るのもやむを得ないところもあるということです。この試合では賢星でした。しっかりと反省をしてくれているとは思いますが、それでも、臆することなく、どんどんボールに絡んでいてもらいたい。確かに失点は痛い。痛いですが「取られた以上に取ればよからう！」なのです。これからも愛媛のような陣形で挑んでくる相手がいるでしょう。5バックとその前に4人、5人と固める塹壕作戦を敷かれるのは厳しいですが、それを打ち破らなくては目指す場所には行けません。本音を言えば、守備を固めたとはいえ、そんなに出来が良かったようにも思えない愛媛に後れを取ったのはホントに残念。勝たなきゃいけない試合だったとは思いますが、結果は結果です。これを受け入れて、さらなる高みをめざしましょう。まあ、今日の不甲斐ない敗戦は、体調が悪いワケでもないのに、自宅観戦を選んでしまったボクのせいってコトで。

(ぐん)

## 【第23節】甲府1-3 岐阜

●前節、最下位・愛媛を相手にホームで逆転負けをしてしまった岐阜に対して、前節、首位・大分をアウェイで降した甲府。そして岐阜にとって、甲府のホーム・中銀スタ（小瀬）は2008年Jリーグ初年度の開幕地であり、初得点・初勝ち点を獲ったスタジアム。しかし同時に、甲府は過去11年で1度も勝っていない対戦相手。11位・甲府と12位・岐阜との中位対決だけれど、J1復帰を目指す甲府は手強く、厳しい試合が予想された。

そして残念ながら予想通り、序盤は甲府の勢いに押された。しかも前節と同じように、自陣のビルドアップ時に相手にプレッシャーを受けてボールを奪われ、そこからのショートカウンターで失点…うーん、これは完全に『岐阜の弱点』として、全チームに認識されて狙われてるんじゃないだろうか？一方のサイドにボールを運ぶのが単調になって、ボールの行き先が読まれやすいというのも関係しているかもしれないと思う。もっと岐阜が改善すべき点のひとつだろう。

しかし、後半になると岐阜のペースに。#11古橋亨梧のシュート性のクロスに#7田中パウロ淳一がGKの目の前でワンタッチで合わせて、同点弾！#7パウロは第7節・甲府戦以来の得点で、マークされて苦しんでいたように感じていたけれど、新しい攻撃パターンを身につけたかしら？#23小野悠斗からのボールにも似たようなゴール前への抜けだしを見せてくれた。そして、#23小野悠斗の追加点！自陣でボールを奪い、#11古橋へボールが供給されると同時に、スプリントを開始。そのまま甲府のGK前まで走り続け、#11古橋のシュートをGKが弾いたところを押し込む、泥くさいけれど貴重な追加点だった。これまでずっとスタメン起用だったキャプテンが、はじめてベンチスタートとなり忸怩たるものを感じていたんだろう。そのロングスプリントの勢いのまま、岐阜のサポーターまで突っ込んでいった姿には、つい涙腺が……（苦笑）。そしてそして、#16福村貴幸のスルーパスを受けた#7パウロが、得意のカットイン→シュートを甲府ゴールに叩き込んでダメ押しの3点目！これから再びゴール量産が期待できるかも…と思えるようなゴラッソでした。そして、甲府の追い上げも跳ね返して、3-1で試合終了。J参入11年目。やっと、甲府に初勝利を挙げることができました。

もちろん、甲府はルヴァン杯と天皇杯の影響で、約2週間で5試合と、強行日程をこなしていたため、岐阜よりも疲労が残っていたことも影響しているだろう。それでも、#10ライザの復帰と#7パウロの2得点、#11古橋の2アシストと、好材料が重なって5試合振りの勝利。ちょっと閉塞感のあったチーム状況に、一筋の光明が見えたような気がした。しかし、この光明は油断すると切れてしまう“蜘蛛の糸”のようなもの。しっかりと手繰り寄せて着実に昇っていききたいものです。（ささたく）

●気がついたら、ピッチ内の後片付けもほぼ終わり、甲府サポもあらかた引き上げていて、余韻が冷めやらぬのはウチのゴール裏だけに。自分は、といえば、仲間と握手やハイタッチ、ハグを繰り返した後、何とはなしにアノ日のことを思い返していた。あれから十年。アノ日のことは、今も折に触れ思い出す。CKからの初失点。10番のパスを受けての同点弾がJリーグでの初ゴール。得点したその流れで、エンブレムを叩きながらゴール裏に来てくれた20番。『ちゃんと』当たってさえいれば、間違いなく決勝ゴールを押し込んでいたハズの15番のこと。そして、ゴールを決めた悠斗が走り寄ってくるシーンには、アノ日の20番を重ねていた。アノ日は、春まだ浅く、甲府盆地を取り囲む中央、南アルプスの山々には冠雪が残っていたから、真夏の灼熱が残る前節とは全然違う。おまけに「こんな感じで、どう？」みたいな余裕をかまして駆け寄った20番と、「オレはやったぜ！」とマグマのような熱さをほとばしらせて駆け寄ってきた悠斗とは全然違う。同じなのは、ゴールを決めてゴール裏へ駆け寄ってくることだけ、

なんだけどね。アノ日からこの試合まで、甲府に勝つのに10年かかった。長かったね。いろいろあったね。でも、これからもいろいろあるからね。ここんとこの苦しい流れの中、前節では手痛い敗戦を喫した後での先制された試合。しかも、またまたミスからの失点という重苦しい展開からの3連発！堂々の逆転勝利は、まさに圧巻。「ゴラッソ！ゴラッソ！！ゴラッソ！！！」そう、表現するしかないような、心が踊り、カラダが震える3連発。見たか！コレがFC岐阜だっ……、とか言ってもゴーマンじゃないよね？同点弾は、まさに稲妻と落雷。電光石火というか、青天の霹靂というか。あんなシュート性のクロスにダイレクトで合わせられたら、GKは動けんよ。アレはビクトルにも止められない。当然、ロリス（注：W杯優勝、フランス代表のGK）やクルトワ（注：W杯3位、ベルギー代表のGK）でもムリ。アレに反応したパウロとライザが凄。激烈な一発だった。

それに対して、勝ち越し弾は魂のゴール。またしても、キョーゴの一撃からだったが、「なんで、オマエがソコにいる？」と誰もが目を見張るキャプテンの一撃！相手のGKは確かに弾くのが精一杯だったけど、それでも手を伸ばせば届く位置。それを許さず押し込んだ。相手DFも目で追うだけだったのに。いったい、何十メートル走ってきたんだ？しかも、決めてから起き上がり、ゴール裏まで駆けつけてくれるなんて！「どうだ！見たかっ！」と言わんばかりの熱さをほとばしらせた疾走。あの様子を見て感じるモノがないなら、ゴール裏にいる意味がない。

そして、ダメ押しの3点目。福チャンの測ったかのような、相手DFが足も出せない、出してもギリギリ届かない、そして限りなく優しいグラウンダーに、利き脚一閃！のパウロ。試合後のインタビューで語ったように、優しいけど、『庄』のかかったパス。いや、もう、ラストパスからフィニッシュまで、実にCoooooL！なゴールだった。ホント、シビれた！ゼイタクを言えば、悠斗のループに合わせたパウロのシュートも賢星のシュートも決まって欲しかったな。特に、賢星。トラップがちょいと外に流れた。その分、コントロールし切れなかったか？緑パイセンとの試合同様、もったいない！振り返れば、いろいろアブナイ場面はあったし、甲府は天皇杯やらなんやらでターンオーバー。自分の知らない選手が半分くらい出てたというエクスキューズもあるけれど、平たく言えば完勝？かな。

もちろん、浮かればなしでいるワケにはいかない。終わってしまったえば、ただの一勝。勝ち点3以上の価値はない。見据えるのは前だけ。まだまだ、上位とは差がある。だけど、背中が見えないワケじゃない。「目指す場所は変わらない。」この日のゴール裏に出された一発ダンマク。それは、選手もサポも共に抱く、同じ想い。だからこそそのパウロの言葉。「J1に行きましょう！」はソレを意識できる、狙える位置にいるからこそだ。まだまだ、これから、ここから。まずは、次節の横浜戦。長良川での借りは、熨斗をつけて返さなきゃ！それでもね。やっぱり、この試合は心に響くよね。気持ち溢れるよね。笑いが止まらないよね。帰るまでが遠征です。それまでは余韻に浸ってもいいよねえ（苦笑）。（ぐん、）

## 【第24節】横浜FC 3-0 岐阜

●横浜の気温も30度超え。それはわかってはいたけど、三ツ沢公園を吹き抜けていく風の心地よさは予想外。正午過ぎに着いたけど、木陰にいればやり過ぎそう。そして、キックオフを迎える頃には絶好の観戦日和。こんな状況で調整できるのなら、横浜が現在の好調なのもわかるワ。選手がウラヤマシイ。30度後半になる岐阜の環境に比べたら……、スイマセン、本音4割で強がり3割、負け惜しみが3割です。自分は仲間と離れてエアコンの効いている公園内のレストランで夏の日差しを避けてました、ゴメンナサイ。でも、岐阜ほど暑くなかったのはホントですよ？

まあ、そんなことはさておき、試合の率直な感想はといえば「得点差はあれど、やることはやった。」そう思ってます。キックオフ直後の失点。アレは確かに痛い。でも、前節までと違い、チョンボがあったわけじゃない。だから、その後のキョーゴのシュート。前に出ているGKの頭上を狙ったループが、狙い通りにちゃんと当たってれば……。返す返すももったいない場面でした。あのコンディションの中で横浜に余裕を持たせてしまった。そして、前半終了間際の失点。一点差のままならば……という思いもあります。しかし、手も足も出なかったわけではありません。シュートも打った。枠内にも飛ばした。最後まで走りきった。それでも0-3。これをどう受け止めるか。ブレずにこのまま続けられるのか。はたまた、コレが今の限界なのか。見極めは難しいかもしれない。でも、夏の補強を見るにつけ、指揮官、そしてフロントは今ままで続ける模様。もちろん、とことん、つきあいますとも！だからこそ、試合後の挨拶でも、ゴール裏からは声援と檄しか飛ばなかった。今できることはやりきった。それがわかっているからだと思います。それにしても、イバをトップ下に置ける横浜はヒキョーですね。ロングボールを戸島がことごとく競り勝ち、セカンドボールを拾い続けてたら、そりゃあ、ああいう展開になりますよ。前節に竹田がカラダを張って、ボールを競って、ウチがセカンドボールを拾い続けたのと逆の目が出ちゃったような気がします。

ということで、讃岐戦。調子を上げてきている模様の相手ですが、要はウチのスタイルを貫き、セカンドボールを拾い続けることができるか。そのためにも「長良川での試合であること」をスタンドから選手に伝え続けていきましょう。選手と共に闘う。目指す場所に共にたどり着くために。今節もよろしく願います！（ぐん、）

## 【ユース】

### 東海プリンス、前半戦終了

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）は今年東海プリンスリーグに参戦しています。7月7日に予定されていた第8節の清水桜が丘高校戦は大雨とその後の木曾川の増水の為に笠松町のGFCが使用出来ず、21日に延期されました。続く7月14日に行われた第9節の浜松開誠館高校戦は前半は1対1のドローで折り返したのですが、後半にFC岐阜ユースが一気に崩れてしまい、1対9との大敗を喫してしまいました。そして延期された清水桜が丘高校戦は無事に21日に開催されました。試合前半を0対0で折り返しましたが、後半に入れられた1点を最後までひっくり返す事が出来ず、0対1での惜敗となりました。

これで4月から始まった東海プリンスリーグは前半戦が終了となり、FC岐阜ユースは2勝0分7敗の勝点6となり、降格圏内の9位での折り返しとなりました。ただ後半戦の頑張り次第で残留する目はまだ全然有ります。プリンスリーグ残留に向けて勝ち点の一つずつ確実に積み上げていきましょう。頑張れよ、応援しているからな！！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ずJFAやチームの公式サイトで確認して下さい。

（シュナ）